



「よし出席取るぞ〜！
相原〜！」

「…は、はい」

「んん？
声が小さくて聞こえんぞお！
もう一度、相原！」

「んっ…あっ……はっ、はあ…
上手く…声が……！
あっああん！」



「ほれどうした？
しっかり声を出さんかい。
マンコはこんなに力んで
締め付けてくるというのに」

「はっ、はあ…あっああ…!!
駄目えええ…!!
んっ、あっあん!」

「早く返事しないと
先生イっちゃまうぞ？
朝っぱらから中に
出されたいのか？
ん？」

「嫌あああああ！
中に出しちゃ駄目えええええ！
ちゃんと返事しますからあ……！」

「わかった。
じゃあ、相原！」

「んっ……あっ……！！
はっ……はい！
……はあっはあ」

「よし、いいぞ。
だが時間かかりすぎだ。
先生もう我慢できん！
……うっ！」



「だつ、駄目えええええええええええええええ！」

（泣き出す）

「あー、出る出る！
これじゃあ女子の人数分
持たんぞ！」



「河野、お前また居眠りしてたな？
眠気覚ましに先生のチンポ
しゃぶりなさい」

ちゅーうーうーうーうー…

「ほら、ちゃんと舌動かさせて。
…あー、そこそこ。」
舌先が尿道口にチロチロ当たって
…うああ気持ち良い」

ん

ん
ん
?

「ガマン汁も、こぼさずちゃんと飲めよ？
じゃないと机が汚れちゃうぞ」

んっ

ちゅっっっっ

んんっ

「あー、亀頭の先が吸われて…
うっっ…駄目だ。
このままイきそうだ！」

71

5.11

ニノノ

「どうだ先生のザーメンの味は。目の覚めるような味だろ？ハハッ」

「体育の授業始めるぞ！
まず準備運動だ。
女子はマットの上で股広げろ」

（ふええ、この恰好
恥ずかしいよお…）

ぽかっ♡



「ペアの男子は
女子のマンコよくほぐしてやれえ！」

「あっ……！ いやあああ！」

「よし、じゃあ挿入れるよ佐伯さん。
んっ…おっおっおっおっおっお！
佐伯さんのおマンコやわらけえ！」

「あっ……！ だ、駄目えええええ！
いきなりっ…深いよおっおっおっお！」



「奥までしっかりほぐさないとね〜」

「あっああん！
駄目ええええええええええええ！
そんなに激しく突かないでえ！」

「おっ、佐伯さんのマンコ
良い具合にとろっとろに
なってきたぞ。」

「…うっ、俺ももう限界だし…」



「佐伯さんイクよ！
仕上げの中出しだあああああ！」

「やあああああああああ
あっあ、熱いの……！
ふあああああああああ
駄目えええええええええええ！」





「お願いい！
トイレ先にさせてよお！」

「悪い悪い、俺も我慢できなくて
すぐ済ますから…
あー下半身力んで丁度いい膣圧」

「あんっあん！ 駄目え！
漏れちゃうってばあ！」



「あーすげえ気持ち良い…
なかなかやめられないわ。
お、小便より先に
いやらしい汁が流れてきたぞ」

「あんっああん！
そんなに激しく突いたら
あ、あああああああ
駄目ええええ…！！
もう限界だよおおおおお！！」





「うおー出る出る！
小便みたいに止まらねえ！」

「嫌あああああああああああああ！
熱いのがどんどん入ってくるよお！
だ、駄目ええええええええええええ！」

「ほら、もっと腰を振れ！
そんなんじや全国大会で勝てないぞ！」

「は、はい……！」

「俺のチンポの動きに合わせてろよ！
おらっ、行くぞ！ ふんっふん！」

「あっ、だ、駄目ええええええ！
そんなに激しく突き上げちゃ…
あんっあんっああん！」

ズ
ッ

ズ
ッ
オ
ッ



「あんっあん！
もうっ、これ以上無理ですう！
あっあああん！」

「弱音を吐くんじやない！
それにお前のマンコ、汗と愛液で
グシヨグシヨだぞ！
本当は気持ち良いんだろう！？」

「そ、そんなことっ…無い、ですう…！
あつ、ああああん！
もう…ダメええええええええええ！」

ズ
キ
オ
ッ

グ
フ
フ

「笑顔も忘れるなよ！」

本番ではお客様をお前の
ドスケベな姿で楽しませるんだ！」

「は、はひ…。」

笑顔、笑顔…！」

「よし、いいぞ！」

膣の締まり具合も最高だ！

…うっ、俺もそろそろイきそうだ。
このまま中で出すぞ！」

ズ
ッ

ズ
ッ

グ
チュ
ッ

オ
ッ

「練習頑張ったぞ褒美だ！
膾で受け取れえええええええ！」

「あつ、駄目ええええええええええ！
お腹の奥にどんどん入ってくるう！
こんなに出されたら
赤ちゃんできちゃうよおおおおお」



「水野、お前またタイム更新できなかったのか!」

あー

あー

うーっ

「す、すみません先輩!
明日は必ず…
だから、もう…こんなこと
やめっ…!」

「駄目だ。まだペナルティーは
終わってないぞ!
ほらもっと腰動かせ!」

ズボッ

ズボッ



「あつ、だつ…駄目！
硬いものが奥に当たって…！
これ以上もう無理だよお！」

あ、

ムニャッ

あ、

「そんなこといって
アソコびしょびしょにして
感じてるじゃねえか！
乳首もおっ立たせやがって。
そのスケベな体にザーメン
ぶちまけてやる！」

「ひっ…やだあ…！！
やめてええええ…！！」

ズボッ

ズボッ



「おらっ！
もっと良いタイム出さないと
妊娠しちゃうぞ！」

「あああああああああ！
駄目ええええええええええええ！
熱いのがお腹の奥にいっぱい
入ってくるよおおおおおおお！」



「水野、お前またタイム更新できなかったのか!」

あー

あー

うー

「す、すみません先輩!
明日は必ず…
だから、もう…こんなこと
やめっ…!」

「駄目だ。まだペナルティーは
終わってないぞ!
ほらもっと腰動かせ!」

ズボ

ズボ



「あつ、だつ…駄目！
硬いものが奥に当たって…！
これ以上もう無理だよお！」

あ、

ムニャ

あ、

「そんなこといって
アソコびしょびしょにして
感じてるじゃねえか！
乳首もおっ立たせやがって。
そのスケベな体にザーメン
ぶちまけてやる！」

「ひっ…やだあ…！
やめてええええ…！」

ズポッ

ズポッ



「おらっ！
もっと良いタイム出さないと
妊娠しちゃうぞ！」

「あああああああああ！
駄目ええええええええええええ！
熱いのがお腹の奥にいっぱい
入ってくるよおおおおおおお！」



「あっ、嫌あ！
離して下さい！」

「全校生徒のために身を尽くすのが
生徒会の役目だろ？
チンポの世話くらいしてくれよ」

「そ、そんなこと私…
あんっ…！！
だ、駄目え！ あっああん！」

「エロい声で鳴きやがって。
真面目そうに見えて、
スケベな女だぜ！」

ズッ

ズポッ

プルッ





「おらっ、ここがいいんだらう?」

「あっ、ああん!
お願いだからもうやめて下さ..
んっ、ああ!」

「そんなこと言って
アソコがグシヨグシヨだぜ?
本当は気持ち良いんだろ?
生徒会長さんよお?」

「そ、そんなことはありません!」

ズッ

ズッ

プルプル

「へえ、会長さんは
もっと激しいのがお好きかい？
…なら、これでどうだ！」

「やあああああああああ！
そんなに激しく突いちや駄目ええええ！」

「はあはあっ、俺ももう
いきそうだ。
よし、このまま中を出すぞ！」

「だ、駄目え！
中に出さないでえ！」





「おらっ、どろっどろの濃いザーメン
たっぷり注いでやる！」

「嫌あああああああああああ
体の中に熱いのが
入ってくるうううううう！」

じゅっ
2

「エッチに不慣れな新入生は
居残りセックスで上手になろうね！」

「ほらっ手休めないで
もっとチンポ扱いて！」

「おおっ、まだきつきのマンコ。
気持ちいいぜー！」

ヌヤッ

プルンッ



「ああ、いいよ。その舌使い。
うあっ…気持ち良い…」

「あー、可愛い手つきで
シコシコされるのたまらん」

「へへっ、アソコも良い具合に
とろけてきたぜえ」

ヌヤッ

プルッ



「うっ…俺、もうイきそうだ！」

「俺も…!!
あー、すげー出る」

「ふう…、まだまだ下校させないぜ。
放課後もたっぷり可愛がってやる」

































































